

# 塑性加工はロマンか、 スマート&クール鍛圧機械 MF-Tokyo 2015 開催に寄せて

一般社団法人日本鍛圧機械工業会 川西宣明\*

「MF-Tokyo プレス・板金・フォーミング展」はわが国の鍛圧機械の高い技術力を世界に発信することを目的に2009年に開催したのが始まりです。4回目となるMF-Tokyo 2015は、環境に優しく無駄のない鍛圧機械産業の技術進歩を皆様にご紹介いたします。

## ◇ 過去最大規模で開催

これまでの出展者数の変遷を見てみますと、第1回は112社701小間でスタートし、第2回は148社891小間、第3回は201社1,062小間、今回は過去最大の223社1,304小間と前回比22社、242小間増となりました。毎回、大きく小間数を伸ばし、今回は出展申し込み締切日前に予定の小間数に達しました。これは、これまでの実績をご評価していただき、会員企業の積極的な出展と会員企業以外からも多くの出展をいただいたお陰と感謝しております。また、国外からの出展は17カ国72社257小間（前回2013年12カ国55社191小間）となり、開催時の狙い通り、世界から注目される展示会に成長しています。鍛圧機械、塑性加工技術の専門展を日本で開催する意義は回を重ねるたび高まっています。



川西宣明会長

\*（かわにし のぶあき）：  
代表理事会長、コマツ産機株  
代表取締役社長  
〒105-0011 東京都港区芝公園  
3-5-8 機械振興会館308  
TEL：03-3432-4579

出展者数、小間数ともに最大規模で迎える今回は32,000人が来場する見込みです。海外からの来場者の増加を目指した取組みも行っていました。インドネシアからの来場者への優待のほか、You Tube（ユーチューブ）での展示会開催告知広告、新聞広告、中国有力機械新聞への広告掲載など行い、今回の来場目標を全来場者中3%以上としています。

## ◇ 難成形材加工、耐環境性能、 安全を担保する鍛圧機械技術

本展は「塑性加工はロマンか、スマート&クール鍛圧機械」を副題に掲げており、鍛圧機械に関連する多くの産業分野の方々にご出展をいただいております。

自動車の難加工材に対応するプレス加工技術や高生産性と省エネルギーをかなえる板金、レーザ加工技術、作業者の安全を担保する周辺技術など世界先端の技術が集います。来場者との技術交流や商談の場として、モノづくりの未来へ向けた新しい道を探ることを目指します。

併催事業として開催するシンポジウムでは、技術の進展が著しい分野にスポットライトを当て、サーボプレス、ファイバーレーザ、鍛造、金型をテーマに、主要メーカー数社の技術者がパネリストになり、自社製品の主張や利点を述べ、討議を行います。講演回数を増やし、最新技術を提案します。また出展者セミナーは52講演を開催します。

## ◇ 産学連携による技術セミナーも開催

前回に続き、学会テクニカルセミナーでは日本塑性加工学会、レーザ加工学会のほか、今回は新たに日本ばね学会と日本ねじ研究協会のご協力い

たきました。企業および大学で最先端の研究に携わる技術者、研究者が成果発表を行うほか、業界団体による最新動向の紹介もあります。

また、関東近郊の大学の24研究室による「大学研究室発表会」を開催します。塑性加工に関してどのような教育が行われ、次世代が育っているのかについても関心を持っていただければと思います。

### ◇ MF技術大賞の受賞製品、技術を展示

日本鍛圧機械工業会では鍛圧塑性加工技術の総合力の顕彰が目的のMF技術大賞を2010年から設けています。2014年は3つの製品が大賞を受賞しました。本展では受賞製品、技術をパネル展示します。

同賞は鍛圧機械、製品加工、金型、システム、素材、組立てなど各要素を組み合わせたモノづくりの総合力を評価し、トータルでエコな製品製作の成果を発信します。川上から川下までの鍛圧塑性加工技術の発展に寄与することが狙いです。鍛圧機械の良さを最終製品で判断するため鍛圧機械メーカーと加工メーカーなど連合体を表彰します。鍛圧機械を利用した塑性加工技術の集大成として世界的に類を見ない賞です。鍛圧塑性加工技術の集大成としてMF技術大賞を世界最高級の賞として広め、この賞を受賞することが鍛圧機械メーカー、加工メーカーにとってモノづくりを高度化して、新製品、新技術を開発するモチベーションとなるように国内、海外に認知と啓蒙を行い、育てていきたいと思えます。

また、今回からはMF技術大賞に次ぐ賞としてMF技術優秀賞も新設しました。実用化が期待される部品とその製造技術や機械を評価しています。MF技術優秀賞の受賞製品、技術もパネル展示いたします。ぜひ、革新的な技術、製品をご覧ください。

### ◇ 出展者、来場者ともに成長を実感できる展示会に

2014年度暦年の鍛圧機械受注額は3,279億円と前年比17.7%増となり、2015年度1~4月の受注動向も前年比2.0%減ながら、堅調な実績を維持しております。これは設備投資促進優遇税制



MF-Tokyo 2013会場やシンポジウムの様子。  
今回はさらに充実した内容が期待される

による更新需要、2014年度補正予算の省エネルギー補助金、円安効果による輸出の寄与などがあります。

現在、鍛圧機械のユーザーは海外拠点での人件費高騰や労働人口減少などが課題になっています。こうした課題を背景とする生産の自動化について、プレス機械も板金機械も周辺装置と一体になったシステムの進歩が求められており、機械メーカーが取り組んでいかなくてはならないテーマの1つであります。

こうした課題への取組みも踏まえ、本展は鍛造協会のほか、今回より日本工作機械工業会、日本ロボット工業会、日本ばね工業会、日本ねじ工業協会からもブース参加いただきました。学会、研究機関に加え、業界団体との連携をしながら、出展者と来場者に有益な情報を提供し、塑性加工メーカーの競争力を付与する提案ができるよう努力をして参りました。

本展は、鍛圧塑性加工、レーザ加工の技術力を発信する展示会です。

ぜひ、多くの方にお声掛けいただき、目標の来場者を突破し、出展者と来場者にとって実りある展示会することが主催者である当工業会の願いです。出展企業と当工業会、日刊工業新聞社が1つになって成功に導きたいと思えます。MF-Tokyo 2015へのご来場を心よりお待ちしております。